

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人 川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1810番地24		
自己評価作成日	平成30年9月12日	評価結果市町村受理日	平成30年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4572100677-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4572100677-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年10月3日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに、近隣の保育園児との様々なイベントでの交流や、地域交流施設「はなぶさ」での地域の方々との触れ合いを通しての交流を図っている。A棟、B棟の利用者に地域での買い物を楽しんでもらえるように買い物に付き添い、目で心で楽しんでもらっている。行事のなかにドライブを多数組み込んでおり外に出る事により他利用者との会話が多く聞かれ、気分転換を図る事ができている。「行きたいところへ出かけましょう」は本人が希望する場所、又は会いたい人の希望を取り入れ参加していただいている。一人ひとりが毎日生きがいを持って生活できるように支援している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員で理念を基本に、常に利用者寄り添うケアに努めている。地域の保育園児との交流も盛んに行われ、地域の商店や地域交流施設「はなぶさ」に出かけるなど、積極的に外出支援に取り組んでいる。また、庭の畑での収穫を利用者と共にし、食の楽しみに繋げている。月2回の「行きたい所へ出かけましょう」では、利用者一人ひとりの望む場所へ出かけ、気分転換と同時に楽しめるよう支援に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき全員で協力している。理念は玄関に掲示している。		「ゆっくり一緒に楽しく」の理念をミーティングや研修で確認しあい、全職員で利用者に寄り添うケアとなるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店で買い物をしている。地域交流施設はなぶさで地域の方々と触れ合いながら交流を図っている。保育園の園児と運動会に参加したり、慰問を受け交流を図っている。		月に1回地域交流施設「はなぶさ」での交流をはじめ、地域の保育園の運動会に参加するなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染流行時を除き、面会に制限を設けず、見学希望者、ご家族に施設の様子を見ていただいている。利用者との交流も図れるように対応している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議委員の方々に、意見や助言をいただきながらサービス向上に取り組んでいる。		会議ではホームの現状や内容報告などが行われ、参加者からアドバイスや意見が貰えるよう取り組んでいる。出された意見が日々の支援に生かされるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をしていただいたり、担当者に随時助言や意見をもらう事により改善に努めている。		行政の担当者が運営推進会議に来た時に助言を貰ったり、分からない事があると電話や出向いて直接、指導や助言をもらうなど連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないをモットーに、3ヶ月毎に職員間で研修を行い、身体拘束ゼロを目指し、ご家族にもしっかりと説明をし実践している。		研修や日々の申し送りなどで、身体拘束ゼロを目指し取り組んでいる。月2回のホーム内研修ではスピーチロックの研修にも取り組み日々のケアに生かされるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修等で常に勉強会を行い、職員間で意識向上を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修等で勉強している。必要に応じ関係機関に問い合わせる等の対応もしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や御家族が不安にならないように、必要時には事前に文書等で納得して頂けるような説明をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は必ず家族と会話し、管理者、職員が御家族の要望や意見を聞くようにしている。又送迎時は必ず玄関で見送っている。	家族会の開催が年2回行われており、運営推進会議にも家族の参加がある。またホームでの面会時には意見、要望がないか聞き取れるよう工夫している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日ミーティングを行う中で職員一人ひとりの意見や要望を聞きながら利用者が快適に過ごせるように配慮している。	ミーティングや日々の申し送りなどを含め、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。小さな気付きも共有できるように、支援に生かせるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況を把握し、労働基準法に基づいた就業環境等の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修は出張として取り扱い、積極的に参加してもらい、スキルアップを図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で情報、意見交換を行う事で質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なモニタリング、アセスメントを行い、本人の生活歴を把握し、信頼関係が築けるような対応をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族と連携し、よりよい関係性ができるように情報を共有している。困っている事や、要望等にすぐに対応できるような関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った経過、本人と家族との関係、希望されている事を把握し、その人らしく生活できるような環境づくりに努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりを年長者として敬意を払い、その中で出来た関係性を基に一緒に生活していく。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との連携を密にし、情報共有を行っている。家族対応の受診の援助も行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「行きたい所へ出かけましょう」を月に2回取り入れ、本人が行きたい場所、会いたい人に職員が付き添い、行っていただいている。	利用者の日頃の会話から地元の山が見たい、姉に会いたいなどの希望に添うよう、職員が同行し馴染みの関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが行事や活動に参加し、交流を図っている。お互いの体調を心配し、声かけもされている。			



自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても、本人や家族から相談を受けた場合は、必要に応じて支援を行う。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望が聞かれる時は、その人に寄り添い受容、傾聴を心掛けている。		日々の支援の関わりの中で、利用者の表情や行動、言葉からどうしたいのかを読み取るように努力している。職員で情報を共有し、意向の把握に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、生活環境を把握し、行動や症状を記録しており、ケアの参考になっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人が出来る事を把握し洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、掃除等してもらっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、家族との連携を図り、モニタリングを行うことでその人らしく生きる為の介護計画を作成している。		担当者を中心に本人や、家族の意向も取り入れ職員全員で意見交換を行い、介護計画に生かされるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別に細かくどんな小さな事でも記録として残している。職員間で情報を共有し、ケアを実践している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化に気づき、その時の本人のニーズを捉え、様々な角度からサービス内容の検討を行い、その人が必要とする支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある保育園児と一緒に行事に参加している。又地域交流の場に職員と一緒に出向き、交流を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談し、主治医の確認を行っている。日常の様子、受診に必要な情報がかかりつけ医に報告し連携を図っている。	協力医の週2回の訪問診療があり、かかりつけ医となっている。また他科受診の場合は家族の協力の下支援がされている。家族が同行できない場合は職員が同行しているが、情報は家族と共有し連携を図るよう取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定を一日2回行い、体調の変化が見られる時はかかりつけ医の指示を仰ぎ、対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し、医療機関との連携を密にしている。入院中も連絡を取り合い、必要な情報を得ながら退院後の生活へ繋げている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族の希望を踏まえ、医療的な処置が必要になった時は、現状の対応に適した転居、転院をすすめている。	入居時に説明対応しており、状況の変化には医師の意見も参考に、随時家族や利用者との確認が行われ意思確認書を作成し共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを基に早期対応が出来る様に準備している。緊急の時はかかりつけ医の指示を仰ぎながら対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内で昼間、夜間の火災、地震、水害の訓練を実施している。非常食等の備蓄もしている。	台風や火事、土砂崩れなど様々な場面を想定し定期的な避難訓練が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対しての尊敬を込めた挨拶、言葉使いを心掛けている。園内研修、接遇、マナーの基本の勉強をし職員のレベルアップに努めている。	接遇研修などを行い、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。職員間で気づいた時には改善できるよう意見交換がされている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に発言し、希望に応えられるような雰囲気作りを心掛けている。職員同士の連携、情報の共有も行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、臨機応変な対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たい衣類を着ていただいている。2ヶ月に一度馴染みの美容室より散髪に来ていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが手の届く範囲のテーブル拭きをしていただき、食前、食後の挨拶もしていただいている。職員も一緒に食事をいただいている。	基本の献立は栄養士が立てているが、職員が考えた1品を加えるなどの工夫をしている。利用者と共におやつを作ることもあり、食事が楽しめるように取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に少しバラつきがあり、好き嫌いがはっきりとしている利用者に、代替を準備し対応している。水分も摂ってもらっているが、お茶の摂取が少ない方には代替を準備し対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、洗面所にて口腔ケアを行っている。コップと歯ブラシはその都度洗浄、乾燥している。義歯は義歯洗浄剤を使用し、常に清潔を保持している。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、早めの声掛けを行い誘導している。		介護記録や排便チェック表も活用し、利用者の様子から察知し、さりげない声かけや誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや水分補給の声掛けを行いながら、自然排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望があれば毎日でも入浴していただき、本人のペースに合わせ、ゆっくり入浴していただいている。		基本は週3回としているが、利用者の希望に合わせた対応が取られている。ホーム内の入浴班の考案でどくだみを使った薬蕩風呂などを準備し、利用者が楽しめるよう努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を見ながら、食後の休憩、夜間安眠ができるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや担当者会議で確認し、協力医との連携を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、無理のない出来る事を取り入れている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の方々が楽しんでいただけるよう行事にドライブを多数組み入れている。「行きたい所へ出かけましょう」はその人が希望する場所、会いたい人を聞き、参加してもらっている。		ホーム周辺の散歩や、外気に触れることを目的としたベランダでのお茶会など工夫している。近隣の商店への買い物や、年中行事以外にも行きたい所などを聞き取り、外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を心配される方はお金を預かり、代わりに支払い、毎月収支報告書をご家族にしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いの葉書の作成をしたり、電話のやりとりの仲介をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから季節感が感じられるような花を植えたり、ホール内でも常に花を生けて楽しんでもらっている。常に生活しやすいような温度に調整している。		共用空間にはソファはなく、移動式の畳ベッドが置かれており多目的に使われている。季節の花や利用者の作品も飾られている。換気や湿度にも配慮がされ利用者が過ごしやすいよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビ視聴や、会話、新聞や雑誌を読んだりして思い思いに過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の上に御家族の写真を置いたり、その人が作成した小物や塗り絵を置き、心地良く生活できるように工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事を把握し、その方が生活しやすいように、家具の配置を工夫しながら安心して移動できるようにしている。			